

## 令和4年1月17日 防災学習での講話（放送）

今から27年前、1995年の1月17日に阪神淡路大震災は起こりました。私はその当時、芦屋市の中学校に勤めていました。芦屋市では400人以上の人がなくなりました。学校の校舎は傾き、担任をしていた1年生の自分のクラスにも、亡くなられた人のご遺体が多数運び込まれ、並んでいました。忘れられない記憶です。

その16年後の2011年3月11日、東日本大震災が起こりました。平成の時代に続けて起こった大きな災害で、合わせて2万5千人以上の人々の命が失われました。そしてそれ以上の人々が家族や家を失った悲しみに暮れました。

昨日は南太平洋で起こった火山噴火で、日本でも津波警報が出て22万人の人々が避難しました。地震や津波などの災害は必ず来るものです。それは30年後か、3分後か、わかりません。残念ながらそれを前もって知る力は私たちにはありません。私たちにできることは地震や津波がどのようにやって来て、どんな被害を及ぼすかを、過去から学び、それに備えることです。

日本は台風や地震などの自然災害がとても多い国です。日本人は昔からこの自然災害と向き合ってきました。そして、逃れられない災害に備えるために様々な知恵や術を身に付け、それを後の人に伝えてきました。

これまでの大きな災害を振り返っていえることがあります。人間には自然をコントロールする力はありません。あるのは何度災害が起こっても助け合って立ち上がっていく強さと、傷つき弱っている人を助けようという優しさです。

一度失われた命は戻りません。先の地震や津波では何百人何千人という君たちと同じ中学生が、命と共に、描いていた夢や未来を失いました。みなさんはそのことを忘れず、命を、夢を大切にしてください。

そして困っている人にそっと寄り添う優しさと、苦しいことから逃げない強さを持った人になって、与えられた時間をしっかり生きてください。これは人を傷つけたり、いじめたりすることとは全く反対の、本当の人間の強さ美しさです。

1月17日にだけ災害のことを考えるのではなく、日ごろから備えを忘れず、もし地震が起こったら、どのようにすればいいのかを家族で話し合っておくことが大事です。では、今日一日を大切に過ごしましょう。

これで校長先生からのお話を終わります。